

線形代数学演習問題 1 (後期)

問題 1 \mathbb{R} -ベクトル空間 U, V, W に対して, 次の問いに答えよ:

1) 直積集合

$$V \times W = \{(v, w) \mid v \in V, w \in W\}$$

は

$$\text{ベクトル和} : (v, w) + (v', w') = (v + v', w + w'),$$

$$\text{定数倍} : \lambda(v, w) = (\lambda v, \lambda w)$$

$((v, w), (v', w') \in V \times W, \lambda \in \mathbb{R})$ により \mathbb{R} -ベクトル空間となることを示せ.

2) \mathbb{R} -線形写像

$$f : U \rightarrow V, \quad g : U \rightarrow W$$

に対して, 写像

$$F : U \rightarrow V \times W \quad (u \mapsto (f(u), g(u)))$$

は \mathbb{R} -線形写像であることを示せ.

3) \mathbb{R} -線形写像

$$f : V \rightarrow U, \quad g : W \rightarrow U$$

に対して, 写像

$$F : V \times W \rightarrow U \quad ((v, w) \mapsto f(v) + g(w))$$

は \mathbb{R} -線形写像であることを示せ.

問題 2 \mathbb{R}^4 の部分集合 V, W を

$$V = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^4 \mid x + 2y + 3z + 4w = 0 \right\},$$

$$W = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^4 \mid (x-1)^2 + y^2 + z^2 + w^2 = 1 \right\}$$

により定義する.

- 1) V は \mathbb{R}^4 の \mathbb{R} -ベクトル部分空間であることを示せ.
- 2) W は \mathbb{R}^4 の \mathbb{R} -ベクトル部分空間でないことを示せ.

問題 3 \mathbb{R} -ベクトル部分空間 $V, W \subset \mathbb{R}^n$ に対して

- 1) $V \cap W$ は \mathbb{R}^n の \mathbb{R} -ベクトル部分空間であることを示せ.
- 2) $V + W = \{v + w \mid v \in V, w \in W\}$ は \mathbb{R}^n の \mathbb{R} -ベクトル部分空間であることを示せ.

問題 4 \mathbb{R}^4 のベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ -3 \\ -1 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} -1 \\ -3 \\ 4 \\ 7 \end{pmatrix}$ は \mathbb{R} 上一次独立であることを示せ.

問題 5 \mathbb{R}^4 のベクトル $\begin{pmatrix} -2 \\ 4 \\ -8 \\ 2 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} -1 \\ -7 \\ 8 \\ -2 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} 0 \\ 3 \\ -4 \\ 1 \end{pmatrix}$ は \mathbb{R} 上一次従属であることを示せ.

問題 6 \mathbb{R}^n の n 個のベクトル $\{v_1, v_2, \dots, v_n\} \subset \mathbb{R}^n$ に対して

$$A = (v_1, v_2, \dots, v_n) \in M_n(\mathbb{R})$$

とおく. $\det A \neq 0$ ならば $\{v_1, v_2, \dots, v_n\}$ は \mathbb{R} 上一次独立であることを示せ.

線形代数学演習問題 2 (後期)

問題 1 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 & -1 \\ -9 & -6 & -15 & 9 \\ -3 & -2 & -5 & 3 \end{bmatrix} \in M_{3,4}(\mathbb{R})$ の階数 (rank) を求めよ.

問題 2 \mathbb{R}^n の n 個のベクトル $\{v_1, v_2, \dots, v_n\} \subset \mathbb{R}^n$ に対して

$$A = (v_1, v_2, \dots, v_n) \in M_n(\mathbb{R})$$

とおく. 次は同値であることを示せ:

- 1) $\{v_1, v_2, \dots, v_n\}$ は \mathbb{R}^n の \mathbb{R} 上の基底である.
- 2) $\{v_1, v_2, \dots, v_n\}$ は \mathbb{R} 上一次独立である.
- 3) $\det A \neq 0$.

問題 3 \mathbb{R}^4 の \mathbb{R} -ベクトル部分空間

$$V = \left\{ \begin{bmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^4 \mid x + 2y + 3z + 4w = 0 \right\}$$

の \mathbb{R} -上の基底を求めよ.

問題 4 $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 & -1 \\ -9 & -6 & -15 & 9 \\ -3 & -2 & -5 & 3 \end{bmatrix} \in M_{3,4}(\mathbb{R})$ に付随する \mathbb{R} -線形写像

$$f_A : \mathbb{R}^4 \rightarrow \mathbb{R}^3 \quad (x \mapsto Ax)$$

に対して $\dim_{\mathbb{R}} \text{Im}(f_A)$ と $\dim_{\mathbb{R}} \text{Ker}(f_A)$ を求めよ.

問題 5 \mathbb{R}^3 のベクトル

$$v_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ -9 \\ -3 \end{pmatrix}, v_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ -6 \\ -2 \end{pmatrix}, v_3 = \begin{pmatrix} 2 \\ -15 \\ -5 \end{pmatrix}, v_4 = \begin{pmatrix} -1 \\ 9 \\ 3 \end{pmatrix}$$

に対して $\dim_{\mathbb{R}} \langle v_1, v_2, v_3, v_4 \rangle_{\mathbb{R}}$ を求めよ.

問題 6 x, y, z, w を未知数とする連立方程式

$$\begin{cases} x + y + 2z - w = -5 \\ -9x - 6y - 15z + 9w = 36 \\ -3x - 2y - 5z + 3w = 12 \end{cases}$$

が解をもつか否かを判定したうえで、一般解を求めよ。

問題 7 \mathbb{R} -線形写像

$$f: \mathbb{R}^4 \rightarrow \mathbb{R}^3 \quad \left(\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} \right) \mapsto \begin{pmatrix} x - 2y + 2z + 2w \\ 2x - 3y + 4z + 3w \\ 4x - 7y + 8z + 7w \end{pmatrix}$$

について

- 1) $f = f_A$ となる $A \in M_{3,4}(\mathbb{R})$ を求めよ。
- 2) $\text{Im}(f)$ と $\text{Ker}(f)$ の次元を求めよ。

問題 8 \mathbb{R} -ベクトル部分空間 $V, W \subset \mathbb{R}^n$ に対して

$$\dim_{\mathbb{R}}(V + W) = \dim_{\mathbb{R}} V + \dim_{\mathbb{R}} W - \dim_{\mathbb{R}}(V \cap W)$$

が成り立つことを、 \mathbb{R} -ベクトル部分空間 $V \cap W, V, W, V + W$ の \mathbb{R} -基底を作ることにより証明せよ。

問題 9 \mathbb{R} -ベクトル部分空間 $V, W \subset \mathbb{R}^n$ に対して次の問いに答えよ：

- 1) 直積集合

$$V \times W = \{(v, w) \mid v \in V, w \in W\}$$

は

$$\text{ベクトル和} : (v, w) + (v', w') = (v + v', w + w'),$$

$$\text{定数倍} : \lambda(v, w) = (\lambda v, \lambda w)$$

$((v, w), (v', w') \in V \times W, \lambda \in \mathbb{R})$ により \mathbb{R} -ベクトル空間となることを示せ。

2) 写像

$$f: V \times W \rightarrow \mathbb{R}^n \quad ((v, w) \mapsto v + w)$$

は \mathbb{R} -線形写像であることを示せ.

3) 次元定理を用いて

$$\dim_{\mathbb{R}}(V + W) = \dim_{\mathbb{R}} V + \dim_{\mathbb{R}} W - \dim_{\mathbb{R}}(V \cap W)$$

が成り立つことを示せ.

問題 10 \mathbb{R}^3 のベクトル

$$v_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad v_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad v_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

に Schmidt の直交化を行って, \mathbb{R}^3 の正規直交基底を求めよ.

問題 11 $K = \mathbb{R}, \mathbb{C}$ とする. K -ベクトル空間 V 上の Hermite 内積 $(,)$ に関する二つの正規直交系

$$\{u_1, u_2, \dots, u_n\}, \quad \{w_1, w_2, \dots, w_n\}$$

に対して

$$\langle u_1, \dots, u_k \rangle_K = \langle w_1, \dots, w_k \rangle_K \quad (k = 1, 2, \dots, n)$$

ならば, $|\varepsilon_i| = 1$ なる $\varepsilon_i \in K$ があって

$$w_i = \varepsilon_i \cdot u_i \quad (i = 1, 2, \dots, n)$$

となることを示せ.

問題 12 閉区間 $[a, b]$ 上の実数値連続関数の全体 V は

$$\text{ベクトル和: } (f + g)(x) = f(x) + g(x), \quad \text{定数倍: } (\lambda \cdot f)(x) = \lambda \cdot f(x)$$

により \mathbb{R} -ベクトル空間となる. このとき次の事を示せ:

$$1) (f, g) = \int_a^b f(x)g(x)dx \text{ は } V \text{ 上の Hermite 内積となる.}$$

2) $(f, g) = \int_a^b f(x)g(x)e^{-x}dx$ は V 上の Hermite 内積となる.

問題 13 閉区間 $[-1, 1]$ 上の実数値連続関数全体 V は問題 12 のように \mathbb{R} -ベクトル空間である. 単項式 $f_n(x) = x^n$ を $[-1, 1]$ 上の連続関数とみれば

$$\{f_0, f_1, f_2, \dots, f_n\} \subset V$$

は \mathbb{R} 上一次独立である. 次の問いに答えよ:

1) V 上の Hermite 内積

$$(f, g) = \int_{-1}^1 f(x)g(x)dx$$

に関して, $\{f_0, f_1, f_2, f_3, f_4\}$ に Schmidt の直交化を行って, 正規直交系を求めよ.

2) V 上の Hermite 内積

$$(f, g) = \int_{-1}^1 f(x)g(x)e^{-x}dx$$

に関して, $\{f_0, f_1, f_2, f_3, f_4\}$ に Schmidt の直交化を行って, 正規直交系を求めよ.

問題 14 閉区間 $[a, b]$ 上の実数値連続関数全体 V は問題 12 のように \mathbb{R} -ベクトル空間である. 多項式

$$P_n(x) = \frac{d^n}{dx^n} \{(x-a)^n(x-b)^n\} \quad (n = 0, 1, 2, 3, \dots)$$

$(P_0(x) = 1)$ を $[a, b]$ 上の連続関数とみて V の元であると考えると

$$\{P_0, P_1, P_2, \dots, P_n\}$$

は V 上の Hermite 内積

$$(f, g) = \int_a^b f(x)g(x)dx$$

に関して直交系をなすことを示せ.

問題 15 区間 $[0, \infty)$ 上の実数値連続関数 f で

$$\int_0^{\infty} |f(x)|^2 e^{-x} dx < \infty$$

なるもの全体 V は問題 12 と同様にして \mathbb{R} -ベクトル空間となる。次の問いに答えよ：

1) $(f, g) = \int_0^{\infty} f(x)g(x)e^{-x}dx$ は V 上の Hermite 内積となることを示せ。

2) 実数係数多項式 $f(x)$ に対して

$$\int_0^{\infty} |f(x)|^2 e^{-x} dx < \infty$$

であることを示せ。従って $f(x)$ を $[0, \infty)$ 上の連続関数とみれば $f \in V$ である。

3) 多項式

$$L_n(x) = e^x \frac{d^n}{dx^n} (x^n e^{-x}) \quad (n = 0, 1, 2, 3, \dots)$$

$(L_0(x) = 1)$ を区間 $[0, \infty)$ に対して

$$\{L_0, L_1, L_2, \dots, L_n\} \subset V$$

は 1) で定義した V 上の Hermite 内積に関して直交系を成すことを示せ。